

レポート
多職種
連携

訪問診療に同行するほか
地域包括支援センターの依頼で専門職に講演

退院時カンファに
欠かさず参加、
多い月には2回も

株式会社ひかりファーマ（富山県）

ひかりファーマは富山県高岡市を地盤に、富山・石川両県に9薬局を展開しています。規模を誇る大型チェーン薬局とは異なり、各薬局が地域との繋がりを重視した運営を徹底、地域住民から「よろず相談」を受け付ける敷居の低さが持ち味です。

在宅医療にも積極的に取り組み、退院時カンファレンスに参加する店舗が複数あります。また、医師の訪問診療に同行する薬局があるほか、地域包括支援センターや地域の自治会からの依頼で講演を行うなど、各店が地元の事情に応じた多職種連携を続けています。

住民の困りごと相談を受け付け 専門職に繋ぐ役割も

7月上旬のある日、ひかりファーマが運営する、ひかり薬局四屋店（高岡市）を記者は訪問しました。複数の店舗の薬剤師が同店に集まり、取材に応じてくれることになっていたからです。もちろん、取材には庄司行輝社長も同席しました。

取材を始めると、ある薬剤師が庄司社長を「お父さん」と、親しみを込めて呼びます。事情を聞きますと、全ての社員ではないにしろ、多くの従業員が「お父さん」とか「庄司さん」と呼んでいるとのことでした。家族のような、この親しみやすさが同社の持ち味です。この雰囲気、各薬局が立地する地域に伝わり、住民からは「駆け込み寺」のように、さまざまな相談が寄せられます。OTC薬や栄養補助食品を買ってほしいという依頼は日常茶飯事。中には、「入れ歯が壊れたので何とかしてほしい」という相談まで来るそうです。

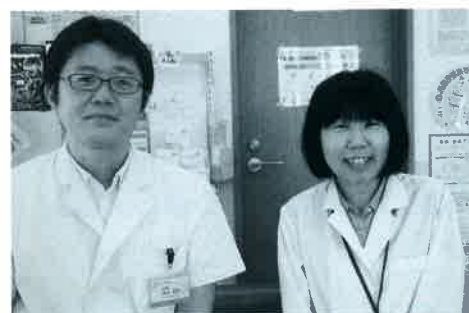
こうした住民の困りごとを薬局が受け付け、ケアマネジャーやヘルパーに繋げる。薬局にとっては、多職種連携を深める絶好の機会になっています。件の入れ歯のケースはケアマネジャーに繋ぎ、解決してもらいました。

突然のカンファにも対応できるよう 十分な薬剤師を配置

ひかり薬局四屋店では現在、二人の在宅患者の服薬を支援しています。

いずれの患者さんも、寝たきりで通院ができない方ではなく、通院できるものの服薬管理を適切に行えない事情を抱えているため、服薬支援を行っています。

同店における多職種連携の取り組みの中で、特筆で



田中宏明氏(左)と
旭美樹さん

きることの一つが、退院時カンファレンスには欠かさず参加していることです。いつでもカンファレンスに出席できる態勢を担保するため、同社では、いつでも各店にヘルプ要員を送れるよう、余裕を持った薬剤師数を確保しています。庄司社長は、「弊社の従業員数はパートを含め38人で、そのうち19人が薬剤師。19人で9店舗を運営している」と話し、突然のカンファレンスの呼びかけにも、代替要員をいつでも送り込めるよう態勢を整えていると説明します。

同社で、退院時カンファレンスに参加しているのは四屋店だけではなく、ひかり薬局戸出店（高岡市）でも積極的に出席しています。過去には1カ月間に2回、同一病院で開かれた退院時カンファレンスに、四屋店と戸出店がそれぞれ参加した月もあったそうです。

一方、高岡市では病院薬剤師が中心となり、高岡医療圏地域連携推進の会が運営されています。年に2～3回、薬局薬剤師を交えた勉強会を開催しており、四屋店の管理薬剤師・田中宏明氏は可能な限り出席しているそうです。

全社的にセミナーの講師活動を展開、 多職種連携をサポート

ひかり薬局定塚店（高岡市）も、二人の在宅患者さんの服薬を支援しています。昨年4月にオープンしたばかりの新しい薬局ですが、多職種連携を積極的に進めています。同店に所属する薬剤師・旭美樹さんは、他店からのヘルプ要請に柔軟に対応できるように、「遊軍」としての役割も担っています。現在、4店舗で保険薬剤師を登録、各店のその日の事情に応じて、柔軟に各店を回っています。

同店の多職種連携の取り組みで目を引くのは、医師の訪問診療に同行していることです。医師が初めて訪問診療を行う場合などに同行、昨年は、同店の薬剤師が医師・看護師などと共に、がん患者さん宅を訪問しました。このケースでは、レジメンに応じた処方日の調整のために、医師から同行の依頼が来ました。

他の店舗と同様に、同店も地域の住民から親しまれています。旭さんは、「ご用聞きのような薬局」と表現します。住民の中には、週に3回も電話を掛けてき



高岡市内に立地するひかり薬局四屋店

て、買い物を頼む方もいたそうです。もちろん、薬局だけでは手に余る内容はケアマネジャーやヘルパーに連絡、解決を依頼します。

射水市にある、ひかり薬局海老江店も、地域住民から親しまれている薬局の一軒です。日用品の買い物代行を頼まれることが頻繁にありつつも、一方で、しっかり多職種連携を継続しています。同店に勤務する薬剤師・長浜祥子さんは、同市が開催している多職種連携研修会（射水市医師会委託）に参加、専門職との関係構築に役立っています。同研修会は、多職種が医療や介護を学び、顔の見える関係を作れるよう同市が開催しているもので、年に3回開かれています。研修会には毎回、100人前後の専門職が参加、同市における多職種連携の推進に貢献しています。

また、同店の他の薬剤師は過去に、お薬手帳の重要性をテーマに、高齢者に話をしたこともあります。これは地域の自治会に依頼されたもので、約50人の住民が集まりました。

こうした講師活動は、ひかり薬局戸出店でも行っています。同店の管理薬剤師・中澤学氏は2018年、地域包括支援センターからの依頼で、認知症高齢者の健康管理と服薬について、医師と共に講演しました。医師やケアマネジャーなど専門職が100人余り出席、連携を深めました。

セミナーの講師に立つ、このような取り組みは全社的に行われており、同社の多職種連携の活動を側面から支えています。